



農業経営者（トマト栽培など） 萩原 誠明さん・梢さん

に聞く
こずえ

萩原 誠明さん・梢さん

30歳の時に脱サラし、美味しいものを作りたいとの思いから、神奈川県から移住。市内で農業研修を経て、平成23年2月に県の認定就農者となり就農。

今では、生食用トマトなどを栽培し、農協や道の駅あいづなどに出荷している。

現在の経営状況などをお聞かせください。

梢さん

私は、当初勤めに

要因です。
組んでいます。

誠明さん トマト（生食用大玉）約20ルア、ナス、ズッキーニなどを栽培しています。

トマトの出荷先は、主に農協でそのほかのナスなどについても、道の駅あいづや直販など、消費者に直接販売しています。

ています。

当初は、美味しいものを作りたいとの思いから、無農薬栽培での農業経営をはじめましたが、生活できるレベルまでの栽培技術を習得できず、また、慣行栽培でも美味しいものを作っている方を知り、現在の経営体系となりました。

誠明さん 取り組みのきっかけは。

誠明さん 私は、以前サービス業をしていましたが、何か物を作りたい、とりわけ美味しいものを作つてお客様に喜んでいただきたいとの思いに駆られ、農業をはじめました。

梢さん エピソードなどお聞かせください。

誠明さん 2年前のゲリラ豪雨で畠が冠水し、3週間ほどトマトの収穫がほとんどできなかつたことがあります。

この地に辿り着いたのは、住まいと農地をセットで借り受けられたことが大きな要因です。

梢さん 男女共同参画社会について。

誠明さん 経営の中での特徴的なことを教えてください。

誠明さん 作物の出荷にあたっては、農協への出荷だけではなく、消費者の顔が見える直販にも取り組んでいます。

梢さん 今後の展望についてお聞かせください。

誠明さん 今後は、農協の合併に伴い、トマトの選果場が整備される予定となつていて、省力化を図りながら規模を拡大したいです。また、直売や加工も手掛けていきたいです。

梢さん さらに、将来はこの地に家を建てたいと思います。

家事も平等に分担して取り組んでいます。
また、集落内には女性でトラクターや草刈りなどの農業機械を操作している方もいて、刺激を受けています。

萩原誠明さん、梢さんの活動は市ホームページにも掲載しています。

問 企画調整課 政策調整室
企画調整係
(24)5209

